



ありとめ りゅうせい
有留 隆世 さん

●犬伏東小学校 6年

命を救う消防士

ぼくの将来の夢は、消防士になることです。

ぼくにとって、火事の現場で命を救う消防士は、小さいころからスーパーヒーローのような存在です。ニュースなどで、自分の命をかけて人々の命を救う消防士の姿を見ると、消防士へのあこがれの気持ちがより一層強くなります。

これからも、学校での勉強や運動をがんばって、みんなから頼ってもらえる立派な消防士になりたいです。そして、一人でも多くの人の命を救いたいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



10月26・27日と親善都市である福岡県芦屋町に行ってきました。古くから茶の湯の世界で「西の芦屋釜、東の天明釜」と並び称されていたことをきっかけに、子どもたちの交流を続けておりますが、伝統工芸である鋳物や茶の湯を通して、それぞれの歴史と伝統を再認識しようとして、昨年から成人を対象とした文化交流事業を始めました。今後もうこうした文化交流を続けていきたいと思っております。

さて、今月7日で新庁舎が全面開庁し1年となります。この1年で多くの皆さんが庁舎に足を運ばれたことと思います。本市のシンボルとして、庁舎の周辺において各種イベントを行ってきましたが、その1つとして、先月13日には、新庁舎東の駅前通りを発着点として佐野市民駅伝を開催しました。まちなかでの駅伝の復活は私の念願でもありましたので、各支部の選手がまちなかを疾走する姿を見ることができ大変うれしく感じました。警察署をはじめとする関係者の皆さんのご協力に感謝いたします。

駅伝と言えば、先月3日に全国高校駅伝競走大会県予選が本市で行われ、佐野日大高校が全国大会への切符を手に入れました。また、12日には、全国高校サッカー選手権大会県予選が行われ、こちらも佐野日大高校が勝利し全国に駒を進めました。高校駅伝は今月25日に京都で、高校サッカーは30日から東京で開催されます。佐野日大高校にはぜひ県の代表としてベストを尽くしてほしいと思います。皆さんも地元校へ大きな声援を送りましょう。

これから年末を迎えます。今年はインフルエンザの流行が早いようです。皆さん、体調に気をつけてお過ごしください。

岡部正英

今回の表紙 「まちなかで開催 佐野市民駅伝」 11月13日(日)佐野駅前通り



体育協会14支部が参加する佐野市民駅伝が、今年はまちなかを発着点として、県道桐生岩舟線、東・西の産業道路を走る9区間・約19.6キロの新コースで実施されました。

各地域を代表する各年代の選手たちが、精一杯の走りでタスキをつなぎました。

【結果】優勝：赤見支部、準優勝：犬伏支部、第3位：田沼中央支部

キラリ★ 話題の「ひと」

前橋 美那子 さん (堀米町)

〇プロフィール

佐野市在宅介護家族の会会長
自身の経験を活かし、介護をするうえ
の協力体制の大切さを話す。



「苦」としない介護

前橋さんはご自分のお母さんの介護をきっかけに、この活動に関わり始めました。

お母さんの介護は、はじめは横須賀からの遠距離介護だったそうですが、佐野市に移住してきて、本格的に介護をする生活の中で、この「在宅介護家族の会」を平成11年に立ち上げたそうです。現在124人の会員がいらつしやいます。

前橋さんはその実体験を通し「在宅で介護をされている方はどうしても家に閉じこもり、悩みをおひとりで抱えがちです」と話します。そこで「同じような状況にある介護者が、お互いに知恵を出し合い、研修し、悩みを語り合う場所をつくろう。そして、介護者やその家族がお互いに交流し、介護への理解を深めるとともに、家族への援助を図りながら在宅福祉の向上を目指そう」という思いで、会を設立したそうです。

前橋さん自身、実母・義父母、叔母さんと4人の介護を体験し、介護をするにはいかに周囲の皆さんや、親族、在宅医の協力が大切かということをお話します。介護をすることが「苦」では

ないってことはすばらしいと思いませんか。

現在、前橋さんは認知症の人と家族、地域住民、専門職の誰もが参加でき、集う場所として「楽風カフェ」(オンラインカフェ)の運営にも携わっています。このカフェは田沼町の介護予防拠点施設いきいき元気館ためまで行われており、次の3つの特徴があります。

①毎週金曜日午前10時〜午後3時の営業

②相談対応、情報提供、専門職へつなぐサポートを実施

③毎回、日常生活のためになる講座や催しを実施

平成28年7月に開設して以来、すこしずつ利用者も増え、お越しいただいた皆さんに、喜んでいただいているそうです。さらに多くの皆さんにご利用いただきたいということなのです。

さいごに前橋さんは、このように話しています。「介護している人に、常に寄り添える人でありたい」と。

介護に携わっている人もそうでない方も、まずは楽風カフェに足を運んでみてください。(市民記者 葛貫郁子)

佐野市 ばんざい

修繕することをハソンする という

終戦になっても5・6年の間は、食糧やおびただしく不足した時代でした。生活に必要な道具や器具類などを入手することはとても困難でした。器物や履き物などは、使えば、必ずいたんだり壊れたりします。このような状態になったものを修繕することを、方言ではハソンするといいました。鋳掛職人が「鍋や釜などに穴があいていたらハソンシヤンス(しますよ)」と各家を回りました。かつて一般の家庭で使っている鍋や釜は、穴のあきやすいジェラルミン製のものがほとんどでした。また「ハソンする雨傘がアリヤンス(あります)かあ」といつてくる雨傘職人、「いたんで履けないような革靴があったらハソンシヤンスゼー」といつて立ち寄る靴職人などもいました。昭和の中頃になると「ハソンする」という方言を使う人はめっきり少なくなりました。

ハソンは「破損」と書きます。それなのになぜハソンするが、修繕するという意味で使っているのでしょうか。それは昔の人の着物の洗濯と関係があります。

着物を洗濯するためには、まず縫い合わせた糸をほぐします。ばらばらになった布を、洗濯板で「しごと」と洗い、その洗った布に糊をつけ、張り板に張りつけます。最後にそれらの布を縫い合わせると、元の着物にでき上がります。ハソンすること(着物をほぐすこと)は結局修繕すること、繕うことになりますね。(市民記者 森下喜一)

